

いつもお世話になっております。角川書店のオススメ単行本をご案内致します。

**ぜひ著者インタビューや書評などでの掲載をご検討お願い申し上げます。**

お問い合わせ等がございましたら、下記担当者までお願い申し上げます。

株式会社KADOKAWA 角川書店 ブランドカンパニー パブリシティ室:佐々木 愛(sasaki-a@kadokawa.jp)

〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19 TEL:03-3238-8555 FAX:03-3262-7646

人気作家2人による、奇跡の合作青春小説！

# 僕は小説が書けない

著：中村航 中田永一

発売日：2014年11月1日 価格：本体1,500円＋税 頁数：256頁 体裁：四六判上製

カバーイラスト：宮尾和孝 カバーデザイン：帆足英里子

高校で文芸部に入った光太郎。  
個性的なメンバーや強烈なOBにもまれながら、  
小説の書き方、  
そして自分の生き方を見つけ出していく。

【あらすじ】

まだ、書きたいという気持ちは残ってる？

生まれながらになぜか不幸を引き寄せてしまう光太郎。引っ込み思案で人に心を開くことができず、親しい友人もない。血のつながりのない父親との関係をはじめ、家族との距離感にも悩んでいる。高校に入学した光太郎は、先輩・七瀬の勧誘により廃部寸前の文芸部に入ることに。実は光太郎は中学生のとき、小説を書こうとして途中で挫折した経験があった。個性的な先輩たちや、理論派の原田さん、感覚派の御大という強烈なふたりのOBに振り回されながら、光太郎は自分自身の物語を探し始める――。

初出：「小説 野性時代」(角川書店)2014年10月号、2014年11月号に掲載

【著者略歴】

中村航(なかむら・こう)

1969年岐阜県生まれ。芝浦工業大学卒。2002年「リレキシヨ」で文藝賞を受賞し、デビュー。著書に『100回泣くこと』『あのとき始まったことのすべて』『トリガール!』など多数がある。

中田永一(なかた・えいいち)

1978年福岡県生まれ。2008年『百瀬、こっちを向いて。』で単行本デビュー。著書に『くちびるに歌を』(2012年本屋大賞第4位)、『吉祥寺の朝日奈くん』があるほか、別名義での作品も多数。

【企画概要】

「小説野性時代」(角川書店)の「ものがたりソフト」企画から誕生した、人気作家2人による合作小説。「ものがたりソフト」とは芝浦工業大学研究室が制作にあたり、同大学OBの中村航氏が中田永一氏を誘って共に研究に協力した、小説を書く人をサポートするソフトウェアのこと。今作の執筆にあたってはキャラクター作り、プロット作りのサポートをこのソフトが担った。実際の執筆にあたっては、一定の分量ごとに中村航氏と中田永一氏が交互に執筆するというこれまでにない形を採用。



### ◆「ものがたりソフト」について

「ものがたりソフト」とは芝浦工業大学の卒業研究として開発研究されている、小説を書く人をサポートするためのシステムのこと。

芝浦工業大学の卒業生である作家・中村航さんの声かけで、2012年5月、芝浦工業大学の学生・小出健人さんの卒業研究(工学部情報工学科教授・徳永幸生ゼミ所属)と共同研究がスタートした。理系出身の作家・中田永一さんもチームに加わり、大学での打ち合わせを重ねて実用化に向けた研究を進めていった。

2012年末に第一弾の「ものがたりソフト」が完成。中村さんと中田さんが試用しその際指摘された改善点は、2013年度に新たな学生がそれをブラッシュアップしていく形で引き継がれた。現在は、芝浦工業大学工学部情報工学科教授・米村俊一ゼミで研究が継続されている。

### ◆「ものがたりソフト」の具体的な機能について

システムの前提として、「こういう物語が書きたい」といった、ある程度の具体的な構想がある人に向けた「発想を助けるシステム」である。大枠の機能として、「あらすじ」「キャラクター」「シーン(ブロック)」について作成できるようになっており、それぞれの要素に必要な事柄をシステムが問いかけ、ユーザーはその質問に答えていく。例えば、「主人公の特徴は何ですか?」「主人公は過去に何かトラウマがありますか?」「物語のメインとなる行動を教えてください」「主人公はどのように変化しますか?」「このシーンの時間軸はいつですか?」「登場人物のシーン内での心境を教えてください」など。その質問に答えたものをシステムが「あらすじ」「キャラクター」「シーン(ブロック)」ごとに「誰々と誰々が〇〇というきっかけから、〇〇という行動をする」のようにまとめて整理してくれる。

他にも、ヘルプ機能も多数あり、例えば、「定型文支援」というヘルプ機能では「だが・・・しかし」のような文章を提示することで物語の展開を促したり、登場人物の名前も選択肢の中から選べるようになっている。

### ◆『僕は小説が書けない』の執筆までの流れ

2013年1月に「ものがたりソフト」第一弾を中村さんと中田さんが実際に試用した。中村さんがキャラクターの設計をし、中田さんがシーンの設計をして、協議のもと2013年2月角川書店にて、共作の内容を固める会議を設け、仮題、予定枚数、あらすじを決めた。その後は一定の分量ごとに中村航氏と中田永一氏が交互に執筆という形式を採用し、現在に至る。

※全て「小説 野性時代」(角川書店)2012年10月号、2013年4月号、2014年5月号より抜粋